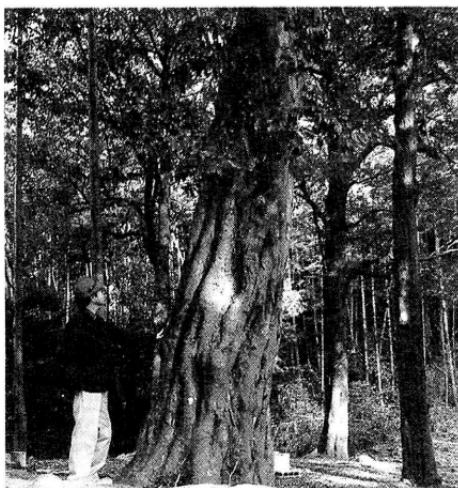


二十八、町指定天然記念物の 樹木たち②

萩尾神社のイスノキ

萩尾は標高三百八十メートルの高所に位置する町内でも寒冷な所です。中でも神社は鳴淵川右岸にあって川の冷涼湿潤な空気が通るためか、九州では海拔約六百メートル以上に群落をつくるイスノキが十本以上も生えています。もともと自然のものか植栽されたかは判明しません。マンサク科の常緑高木で、南九州に多い樹木です。ここで注目すべきは社殿右側に立つ樹齢四百年の巨木で、主幹は直径一メートル余り、紫褐色で表面には縦に深い凹凸の溝がでた個体でしょう。福岡県内でも珍しく、これ程の巨木はあまり見たことがありません。この木には葉や芽、枝先に種々のアブラムシが寄生し、虫こぶ（虫えい）を作ります。特に有名なのはモンゼンイスアブラムシによる果実のような大きな虫こぶで、子ども達の笛にもなり、昔からヒヨウヒヨウ

ウ笛と町内では親しまれています。木材は、我が国で最も重く堅い木（比重が一に近く、水に沈む）で、木剣やステッキ、算盤玉に床板、三味線の棹や撥など、特殊な用途に使われます。



樹齢四百年と推定されるイスノキ巨木